

学校教育目標 <やさしく かしこく たくましく>

櫻の子



10月号 (令和4年9月30日)

児童数 550名

川越市立大東東小学校



体験的に学ぶことにより培われる力



10月に入り、ようやく暑さも落ち着き、過ごしやすい季節となりました。また、秋は爽やかで何をするにもふさわしい季節ですから、「〇〇の秋」と言われることも多く、スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋、食欲の秋などを思い浮かべられることと思います。

スポーツの秋と言えば、9月17日(土)に開催された運動会では、子ども達一人一人の頑張りがとても輝いていました。コロナ禍における体力低下が学校教育の課題の一つとしてありますが、運動会で得られた達成感を、運動に向かう意欲や関心につなげていきたいと思えます。保護者の皆様には、温かいご声援・ご協力をいただきありがとうございます。ありがとうございました。

運動会が終わると、学校では11月に開催される音楽会の練習が本格的に始まりました。今年は、クラスごとに発表をします。1年生は合唱奏、2, 3, 5年生は合奏、4, 6年生は合唱に取り組み、運動会の組ごと3回に分けて音楽会を開催します。子ども達は今、協力して音楽を作り上げることに取り組んでいます。音楽会という1年に一度の学習は、音楽の知識や技能を活用した発展的な学習という位置づけはもとより、友達と協力して心をつ一つにして合唱・演奏をする目標を成し遂げるといった意味合いも強いと考えています。まさに皆でつくり上げるハーモニーです。

練習の時間の中で、子ども達から「体験的に学ぶことにより培われる心の力」を強く感じる場合があります。その力とは、「自立心」「自己抑制力」「責任感」「共生」「寛容」などです。これらは体験の中で心の根本・根底で考え学ぶことにより得られる力だと思えます。また、その力は音楽会という生涯忘れられない行事の中での学びなので、自信にもつながります。力と自信がつけられる音楽会になることを期待しています。

また、このような心の力は、日々の学習や生活におけるさまざまな活動の中で目標を達成したときにも培われます。しかし、時には努力が報われないこともあります。そのような時はどうすればよいのでしょうか。子どもが「あきらめないで努力する」ためには、何より「好き」にさせることであり、次のような流れをつくるのが大切です。

「好き → 取り組む → できる → ほめる
→ さらに取り組む(続ける) → もっとできる
→ もっとほめる → ますます好きなる」。私たち大人は、子どもをこの良い流れに導き、循環させてあげることが大切な役割になるのではないかと考えます。これからも学校は、認め励ましながら子ども達を育成していきます。

